

目次

あいさつ センター長 金本 良通…………… 1
 平成21年度「教育の資質能力追跡調査事業」
 （文部科学省委託）…………… 2
 さいたま市立教育研究所との
 コラボレーション講座の開講…………… 2

教育実践研究部門より…………… 3
 学校臨床心理部門より…………… 4
 教員養成開発部門より…………… 5
 教員客員教授より・スタッフ…………… 6

学校教育における「学習評価の在り方」の方向性を見て

センター長 金本 良通



新しい学習指導要領がすでに告示され、小学校・中学校は移行措置期間の2年目に入ろうとしている。小学校は平成23年度から全面実施、中学校は平成24年度から全面実施である。高等学校は、理数教科が平成24年度より先行実施となり、他の教科は平成25年度よりの実施となっている。また、小学校・中学校においては全国学力・学習状況調査の実施が進められ、これらは一体的な制度として機能している。

このような状況の中で、子どもたちの学習評価の在り方について中央教育審議会の中で検討され、その方向性が明らかにされている。

学習評価の在り方については、学校教育法や学習指導要領の改正等の趣旨をどのように生かすかが焦点になっていた。具体的には、学校教育法で示された学力の3つの要素「基礎的・基本的な知識及び技能」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」と現行の評価規準の4観点「関心・意欲・態度」「思考・判断」「表現・技能」「知識・理解」との関連であり、評価規準の4観点を新たな方向性にそってどのように整理・充実することができるかという点である。案では、特に、思考力・判断力・表現力に関する観点としての「思考・判断・表現」に焦点が当てら

れている。

我が国の子どもたちの学力の状況として、思考力・判断力・表現力について課題があることは以前から指摘されていたが、とりわけ平成16年12月の国際的な学力調査の結果の発表以降は、新しい学習指導要領や全国学力・学習状況調査へと進む大きな動因となった。そして、今回の学習評価に関する評価規準の改訂がある。

案がいう「思考・判断・表現」についての説明を見ると、「この観点に係る学習指導については、それぞれの教科の知識・技能を活用する、観察・実験やレポートの作成、発表や討論といった学習活動を積極的に取り入れる必要があり、新しい学習指導要領においてもこのような学習活動の充実が求められている。また、この観点については、授業改善のための評価だけでなく、指導後の児童生徒の状況を記録するための評価を行うに当たっても、学習の結果だけではなく、結果に至る過程を含め評価することが特に重要である。」と述べている。

このような「思考・判断・表現」の評価、すなわち思考力・判断力・表現力を確かな学力として育成し高めていこうとする取り組みが学校教育の全体にわたって進められようとしており、教員研修も進められつつある。教員養成段階においても十分に反映をさせ、学生たちが、知識・技能を活用して観察・実験やレポートの作成、発表や討論といった活動を確実にできるようにしていきたいものである。また、思考力・判断力・表現力を育成し高めていこうとする教育活動の基盤になる学校や地域、そして、子どもたちの集団と関係性をはぐくむための種々の知見を、大学として提供していきたいものである。

平成21年度「教員の資質能力追跡調査事業」(文部科学省委託)

「『力量ある質の高い教員』を目指す養成・研修の在り方」に関する調査研究

本年度、文部科学省から委託を受け、平成21年度から23年度までの3年間、教員採用選考試験を受験した教育学部4年生全員を対象とした、教員の資質能力の追跡調査研究を実施しています。

教育現場で生じている様々な課題や今後の新たな教育課題により的確に応えるための教員養成課程の質的な充実を図るため、教員に必要な資質能力を実証的に明らかにし、今後の国の専門的な検討に資することをねらいとして実施しています。

《調査研究の概要》

1 目的

- ・教員としての資質能力がどのように養成されているのかを明らかにする。(研究の柱1)
- ・優れた人材を教員として確保するための養成・研修のよりよい在り方を明らかにする。(研究の柱2)

2 方法・内容

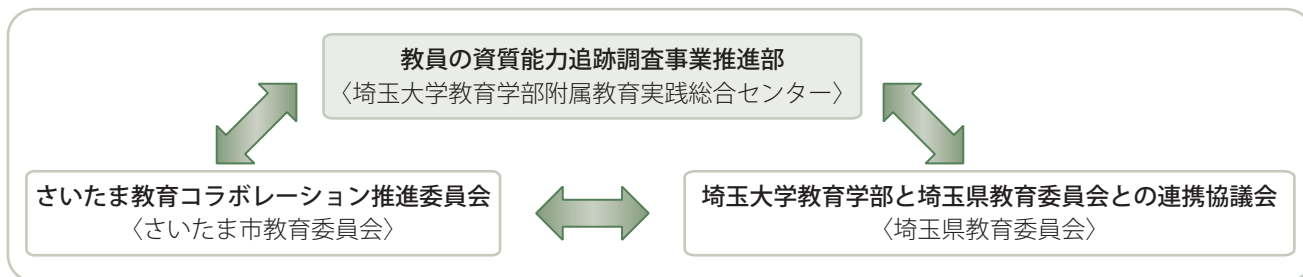
(研究の柱1)

- ①大学における実績を評価する。(大学4年生)→②勤務校における実践を評価する。(教員1年目)→③勤務校における実践を評価する。(教員2年目)

(研究の柱2)

- ①大学カリキュラム等を分析・評価する。②初任者研修等を分析・評価する。③2年次における研修等を分析・評価する。

3 調査研究のための組織



さいたま市(教育研究所)とのコラボレーション講座の開講

教職員のためのメンタルヘルスとリラクゼーション講座

——「第4金曜の会」——

さいたま市の「教師力パワーアップ講座」と連携して、教育実践研究部門と学校臨床心理部門とが、今年度より新しい講座を学内で開いています。案内文は下記のとおりです。

今、多忙感と対人関係、さまざまな圧力に息を詰まらせている教師・職員のみなさん。

子どもとつながり、同僚とつながり、自分自身とも、ていねいにつながりながら、クリエイティブな学びを創造していくために、職員室と教室に、そして自分自身に、どこか「溜め」をもちたいです。メンタルヘルスの向上と、支え合う「同僚性」について、じっくり・ゆっくり・ゆったり学びながら、「溜め」を温める講座です。

曜日・時間：毎月1回(第4金曜日)
(月により、変更する場合があります。)
18時30分～20時30分(出入り自由)

場所：コモ1号館 2F クリニコス・ホール

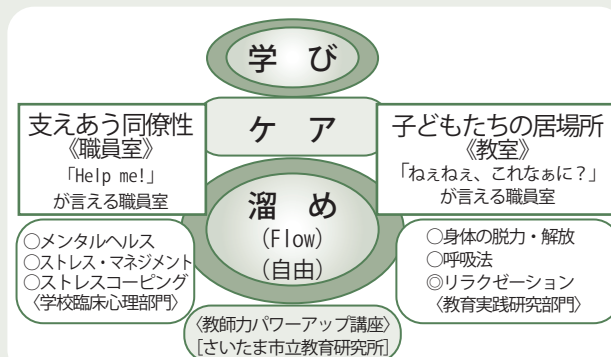
内容：身体を通して、またロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。

リラクゼーション・呼吸法・対人コミュニケーションワーク
メンタルヘルス・ストレス・マネジメント・ストレスコーピング 等々

担当者：センター教員

庄司 康生(教育実践研究部門) 椋田 容世(学校臨床心理部門) ほか

学内のみなさんもお参加下さい。



教育実践研究部門

教育の臨床の学の探求

教職専門性・授業者としての
専門性の探究と養成

- 「学ぶこと」のビジョンと
学びの場の創造開発研究
- Teaching & Learning
Action のリフレクション

教師の授業実践と 子どもの学びを支援

教室の
アクション・リサーチ

教師の実践知の高度化
学生・院生も含めた相互共有

プロジェクト研究

教員養成カリキュラムの
基礎研究

- 教職専門性スタンダード
- 学校の同僚性の構築
- 表現する身体と関係性

平成21年度 アクション リサーチ連携校

- ・新座市立野寺小学校
同 西堀小学校
- ・熊谷市立中条中学校
同 大幡中学校
- ・本庄市立児玉中学校
- ・宇都宮市立古里中学校
- ・練馬区立豊玉南小学校
- ・江東区立南陽小学校
- ・茅ヶ崎市立浜之郷小学校
同 小和田小学校
同 柳島小学校
- ・増穂町立増穂中学校
- ・富士市立元吉原中学校
- ・富山市立奥田小学校
- ・伊丹市立天神川小学校
同 笹原小学校
- ・高知市立潮江小学校
同 鴨田小学校
同 潮江中学校
- ・香南市立野市東小学校

学校改革・授業改革

- 「聴き合う」「学び合う」学び
- 学びの「文化創造共同体」
- 「探究」と「対話」による学び
- 「同僚性」の構築
- アクション～市民性への学び

「木曜ゼミ」

ビデオによる
カンファレンスの会

- 木曜日 午後6時
- クリニコス・ホール
(コモ棟2F)

県内外の小・中学校の授業実践のビデオを見て、語り、学び合います。多様な視点の交流により、教師の実践知を学び合いましょう。

どなたでも参加できます。
(県内外の教職員・学生・院生)

事前にご連絡を。

平成21年度木曜ゼミ内容

- 第1回 4月16日(木)
- 『コミュニケーション (伝える)』
(HR) 熊谷市立中条中学校3年生
以降、下記のカンファレンスを行いました。
 - 音楽2年生 『みんなであわせて』
練馬区立豊玉南小学校
 - 国語3年生 『春に』
熊谷市立中条中学校
 - 国語3年生 『モチモチの木』
練馬区立豊玉南小学校
 - 英語2年生 『沖縄のSadnessと
Brightness』
富士市立元吉原中学校
 - 総合3年生 『養蚕のアタリを願って』
身延町立久那土小学校
 - 社会3年生 『道祖神って何だ?』
身延町立久那土小学校
 - 国語1年生 『タヌキの糸車』
伊丹市立天神川小学校
 - 算数3年生 『循環小数と分数』
熊谷市立中条中学校
 - 国語3年生 『防人の詩』
富士市立元吉原中学校
 - 算数・理科・国語3年生
『まあるいいのち』
昭島市立武蔵野小学校
 - 全校音楽集会
信州大学附属松本中学校
 - 国語4年生 『一つの花』
練馬区立豊玉南小学校
- ほか

教育実践ファシリテーター

認定と交流

- 各学校・園・地域
NPO等の団体の教育にかかわる
実践の支援・推進
- 実践的研究と交流・支援
木曜ゼミに参加

学校臨床心理部門

今年度は、従来から力を入れている、学部の教員養成に関わる活動、附属学校園との連携強化、研究活動の充実、地域貢献に加え、全国国立大学教育実践研究関連センター協議会関連事業への協力の機会が増え、活動範囲が広がりました

◆学部学生への指導・支援

1. 人間形成総合科目「ストレス・マネジメント」の実施

昨年度に続き、前期に、教育学部の「人間形成総合科目」授業として「ストレス・マネジメント」を開講しました。センター教員全員と、今年度は新たに音楽教育講座の蛭多令子先生、保健体育講座の菊原伸郎先生にもご協力いただき、内容をより充実させてオムニバス方式で行いました。昨年度同様、学生には好評で、「日常生活で活かせる知識を得られた」「ロールプレイングやリラクゼーションなどの体験学習もできてよかった」といった感想が寄せられました。

2. 「ストレス・マネジメント実践講座アドバンスコース」の実施

上記授業のアドバンスコースとして、今年度は外部講師をお招きして、ストレス・マネジメント実践講座を12月に2回開催しました。

第1回「考え方のクセに気づくワーク～認知再構成法によるストレス・マネジメント」12月4日

講師：神奈川大学人間科学部 杉山 崇 先生

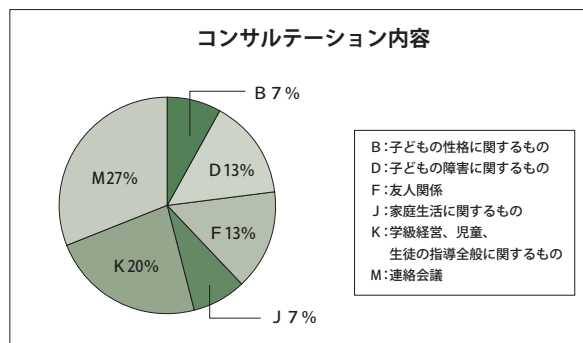
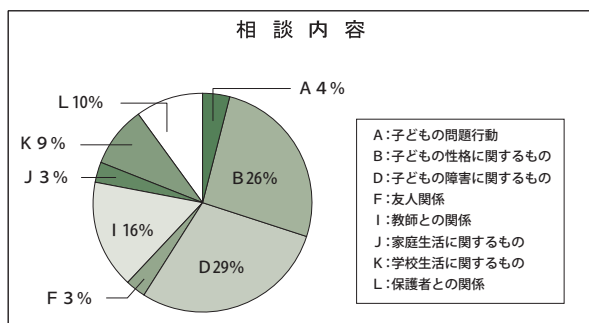
第2回「呼吸の探求とリラクゼーション」12月9日

講師：公認ロルフアー 田畑 浩良 先生

◆附属学校園との連携

1. 附属学校園の児童・生徒、保護者、教員やスクールカウンセラーを対象とした相談活動

この相談活動は、附属学校園との連携の主軸となっているものであり、開設4年目を迎えた今年度より、附属中学校にスクールカウンセラーが配置され、新たな連携体制の構築を図りました。相談およびコンサルテーションの内容と割合は以下の通りです(2月末日現在)。



◆さいたま市（教育研究所）との連携

教育実践研究部門とともに講座を開講しました。

(※詳しくは2ページ参照)

◆研究活動

1. ストレス・マネジメント授業の実施と課題についての研究

授業開始時期と終了時期に、受講生にアンケート調査を実施し、授業評価の分析と検討を行いました。概ね高い満足度と評価を得て、応用編開設への期待も寄せられたので、今後、前向きに検討する予定です。

2. 研究報告

今年度のセンター紀要と埼玉大学紀要において、以下の研究報告を行っています。

「私立幼稚園における「気になる子ども」の保育の困難さに関する調査研究—自由記述の分析を中心として」尾崎啓子・吉川はる奈（埼玉大学紀要教育学部第58巻第2号197-204頁）

「継続型学校コンサルテーションの特徴と課題—特別支援教育臨床研究センター「しいのみ」の実践から」尾崎啓子（センター紀要第9号印刷中）

「教育実習に臨む学生の支援強化に向けた実態調査（続）」尾崎啓子（埼玉大学紀要教育学部第59巻第1号印刷中）

◆全国国立大学教育実践研究関連センター協議会関連事業への協力

1. 現代GP教員養成のためのモジュール型コア教材開発研究会教育臨床編チームによる書籍出版

「DVDで見る教育相談の実際」（東洋館出版社）の中の「教師のためのストレス・マネジメント～ストレスと上手につきあうために」（尾崎）を担当しました。

2. 9月20日日本特殊教育学会（宇都宮大学）の全国教育実践総合センター特別支援教育研究会による自主シンポジウムにおいて、特別支援教育臨床研究センター「しいのみ」での実践について話題提供（尾崎）

3. 10月25日に宮崎大学で開かれた全国教育実践総合センター不登校研究会主催公開シンポジウム「不登校・発達障がいの子どものためのサポートを考える」における司会進行（尾崎）

教員養成開発部門

「教員養成開発部門」は、今年度も引き続き、埼玉県及びさいたま市教育委員会と連携し、教員養成の充実、教員の資質能力の向上等について、より一層実践的な研究及び活動を行っています。

1 教員の資質能力追跡調査事業

本年度、文部科学省から委託を受け、教員の資質能力追跡調査事業を実施しています。平成21年度から23年度までの3年間、教員採用選考試験を受験した教育学部4年生全員を対象とした調査研究です。（※詳しくは、2ページ参照）

2 学校フィールド・スタディ推進委員会と一体となった「学校フィールド・スタディA」の実施

大学と学校現場との学びを往還的につなぎ、質の高い教員としての資質能力を養成する目的で実施している本授業は、本年度も引き続き、学びのフィールドを幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校に確保し、学生の体験の充実を図ってきました。本授業を推進する観点から、埼玉県及びさいたま市教育委員会の協力を得て、以下の活動を実施しています。

- 事前授業の実施（5月・10月）
- 実施校への視察と協議の実施（6月～2月）
- 振り返り授業①②の実施（10月・1月）
- 学習相談、補充授業の実施（適宜）



学習の支援を行う学生

3 進路指導委員会、教職支援室との共催による教職支援セミナーの実施

教職を目指す学生に、教育に係わる国の動向、埼玉県・さいたま市教育委員会の推進する教育施策、学校現場の抱える様々な課題、サービスと教育法規等についての講義を実施しています。

主として、前期には4年生対象プログラムを、後期には3年生対象プログラムを実施しています。各プロ

グラムともおよそ300名の学生が参加し、教職に対する理解を深める機会となっています。

4 教職スタート準備講座の実施

卒業後、教職に就く予定の学生を対象に、実践的な能力の習得を目指し、10月から2月までセミナーを実施しています。即戦力を身に付けさせ、質の高い教員として学校現場で活躍できるよう、各教育委員会の協力を得て、プログラムを一層工夫し開催しています。

《プログラム例》

- ・教師の一日と学校の一年間
- ・保護者・地域との連携
- ・学校事故への対処
- ・生徒指導の基礎基本
- ・発問、板書、ノート指導の工夫
- ・学級経営案と学級事務、学級通信
- ・学級開きと保護者会 等

5 さいたま市立小中学校の研究発表会への学生参加

さいたま市教育委員会の協力の下、さいたま市立小中学校研究発表会への参加を促し、教育実践や学校研究に触れる機会を設けています。

現在まで、およそ50名という多くの学生が参加し、学校現場に触れ、指導方法等への興味・関心を深める機会となっています。

6 教育実践総合センターホームページの活用研究

学校現場と大学の学びを結ぶツールとして、また教育実践総合センターが実施する事業の効率化を図るツールとして、ホームページの活用研究を引き続き行っています。

本年度は、各部門の取組の紹介やクリニコスホールの使用予約、学生への情報提供等についての効果的な活用を行ってきました。今後は、現職教員との交流や教職を目指す学生との学習相談等、どんな活用が可能なのかを研究していきます。



（研究中のホームページ）

<http://comweb1.center.edu.saitama-u.ac.jp/>

客員教授より

教員養成に参加して

小杉 和子



学校現場から教員養成に加わった者の使命は、学生に現場の声を届けることでしょうか。久しぶりに教壇に立った緊張感も、学生との交流の深まりとともに、学生を「個人」として見られるようになり、教育実践を語りながらの授業を進めています。

ここ数年の教育関連法の大きな改正がほぼ実施段階に入った今、世代交代の進む現場では、真に教職に夢を持ち、児童生徒の教育に情熱をもって取り組む実践力のある教師を切実に求めています。

新採用教員は即戦力。研修を積むのを待って教壇に登場するのではなく、すでに始まっている現場に途中参加するメンバーの一人。スポーツで言えば既に始まっているゲームに途中参加するメンバーのようなもの。いきなりボールがぶつかってくるし、痛い目にも遭います。でも、それに当たって要領を覚え、ルールを覚え、どこに当てたら勝てるかの感覚もだんだん自分で掴みます。教師の研修の重要性は言い継がれて久しくなりますが、何事も貪欲に吸収する意識と、誰からも学ぶ心と素直さが伸びる要件でありましょう。人間性重視の教員採用選考は時代の要請、動き続ける教育現場の中で、自分のポジションを積極的に探すような意欲ある若者たちを育てたいと願います。

教職支援に携わって

鬼塚真知子



再び教えることのできる喜びと大学生対象の90分間の講義の心配を抱いて、埼玉大学を訪れたのは、昨年4月中旬のことでした。38年ぶりの大学は、すっかり整備され、広々とした構内は緑鮮やかな樹木が伸び伸びと育っていました。あまりにもきれいになった建物を見回しながら教育棟に入ると、ガラス張りの明るい教職支援室に学生が次々とやってきて、ふたりのスタッフに気軽に相談したり、参考図書を借りたりと活気にあふれています。何気なく耳に入った会話には、温かい心遣いを感じました。

さて、第1回目の講義、集まった学生達にスマイルバッチのような顔の絵を示しながら「教師は、いつでも『Smile』『Big Voice』『Eye Contact』を忘れずに児童生徒に接していこうね」と語りかけました。真剣に聞いてくれる学生の姿に心配は吹き飛び、90分はあっという間に過ぎてしまいました。採用試験が近づくころには名前も覚え、髪型や上履きの相談まで受け、担任としての思いが深まりました。

今、学校の活性化には初任者の配置がいちばんと考えます。埼玉大学の卒業生がその役目を担えるよう、微力ながら支援しています。

スタッフ

センター長……………金本 良通

教育実践研究部門……………庄司 康生

学校臨床心理部門……………尾崎 啓子・椋田 容世

教員養成開発部門……………平岡 健・野津 吉宏

兼任教員……………八木 正一・岩川 直樹・船橋 一男

野村 泰朗・宇佐見香代・沢崎 俊之

堀田 香織

事務職員……………小河原千織

客員教授(教員養成開発部門)

小杉 和子・鬼塚真知子

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターニュース

No. 4 2010年3月15日 発行

編集・発行 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤6-9-44

Tel. 048-832-9866 Fax. 048-831-0044

<http://www.center.edu.saitama-u.ac.jp>